

科学研究

校 長 武井 正明

教務室で教頭先生と増田先生が、何か話し合っている。おふたりとも腕組みしながら頭を悩ましているようだ。

ん？どうしたの？と訊くと夏休みの科学研究、3年生で昨年も優れた研究を重ねている彼女を学校代表として出したいのです。ただ2年生の彼の研究も代表としてはあと一歩なのですが、素朴な疑問から始まっている研究で勿体ないんですよね…。

どれどれ…題名は「豚の血と人の血の違い 豚の肝臓」おもしろそうじゃないか。

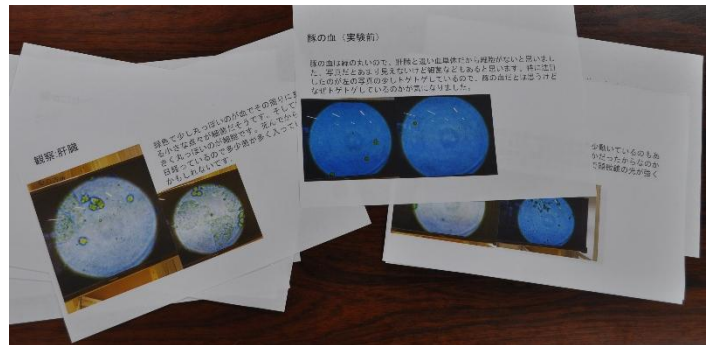
対照実験をして、人の血と豚の血の違いを見ることと、豚の肝臓の観察を通して人の肝臓について研究したいというものだ。

私は前にも本欄で書いた通り、科学研究のセンスの欠片もない。というか発想自体浮かんでこない。苦し紛れに、駒のない将棋盤を大工さんに作ってもらって、しれッと出すくらいだから、こういう素朴な発想で研究に取り組む姿勢自体が、中学時代の自分にはなかった能力であり、賞賛すべき素晴らしいことである。

早速私も、彼の研究を拝読した。

研究者の興味や関心が、等身大で率直に伝わってくる研究内容だった。

実験結果から、人の血は赤血球の量が、豚の血よりも多く見られたとのこと。今回は対照実験の成果はあまり見られず、写真を撮る角度や位置にも課題が残ったようだ。



また考察からは、赤血球と細菌の区別の難しさや、より精度の高い顕微鏡での実験でわかってくることも出てくるのではないか、というものだった。

きちんと形の整った立派な科学実験になっていて感心した。

実験や研究のレベルは、これから伸びていく未来形だとは思う。しかし、理科という科目において必要不可欠な資質は、実験して自然の仕組みや姿を明らかにしていこうとする意欲と姿勢だ。私は彼の研究を読ませてもらって、研究者としての誠実な姿勢が伝わってきて、とても嬉しく思った。そして彼の今後の研究に、大きな興味と期待が湧いた。

2026年の夏休み、彼はオリジナルの理科実験レポートという財産を残した。他の誰のものでもない、君だけの宝物だ。

それだけでもこの夏休みは、彼にとって意義深い時間だったに違いない。

素晴らしい研究を読ませていただきました。ありがとうございます!! 2学期も頑張ってください!!